

## 第12回きらっとあさひ福祉大会 実施報告

日 時：令和6年2月10日（土）13：45～16：00

会 場：旭公会堂

主 催：旭区社会福祉協議会・旭区連合自治会町内会連絡協議会・旭区役所

参加者数：194名（受賞者17名、参加者173名、報道関係2名、議員関係2名）

内 容：

### オープニングアクト

「はっぴオールスターズ」の皆さんによる歌とダンスで福祉大会のオープニングを盛り上げていただきました。

#### 参加者の声（アンケートより）

オープニングアクトは元気よくノリも良かったです。振り込み詐欺防止のラップはとても良いと思いました。



はっぴオールスターズの皆さん

### 第1部

#### 1. 主催者挨拶



区社協 渡邊会長



区連会 林会長



権藤旭区長

#### 2. 表彰式典

令和5年度 旭区社会福祉協議会 社会福祉功労表彰の表彰式典を行い、旭区の社会福祉の増進に功績のあった個人及び団体の方々を表彰しました。受賞者の皆様には表彰状とあわせて記念品として区内の障害者施設で製造されたお菓子の詰め合わせをお渡ししました。

《令和5年度社会福祉功労表彰（内訳）》

地域福祉功労13名・2団体、寄付金品功労1名・4団体、特別功労4名



表彰状授与の様子

#### 参加者の声（アンケートより）

- ・地道に活動されている方に光をあてて表彰されているのがとてもよいと思いました。
- ・どのような活動をした方なのか、あわせて紹介があったのでわかりやすかったです。

## 第2部

### 実践報告 ～みんなが声をかけあえるまち～

#### 「安心安全なまちづくり～話し合いから広がる見守りの取組～」(旭北地区)

コーディネーター 平野 友康氏(横浜創英大学 准教授)

報告者 渋谷 八郎氏(旭北地区まちぐるみ福祉推進会議 統括責任者)

高田 充枝氏(旭北地区まちぐるみ福祉推進会議 推進責任者)

柴崎 浩志氏(横浜市上白根地域ケアプラザ 所長)

実践報告の導入として、横浜創英大学の平野准教授よりお話をいただきました。

##### 1) 旭区地域福祉保健計画について

目指す地区の姿をどうしたら実現できるか、そのために何をすべきかを話し合い、整理をしてみることが大切。

##### 2) コロナ禍以降のくらしの現状について

悩みや不安を抱える、孤立している、「悩みを誰にも伝えられない」人が増えている。

⇒ 声をかけあえる関係は簡単ではない。



コーディネーターの平野先生

#### 参加者の声(アンケートより)

平野先生のお話にあった地区で話し合うことの3つの強み「把握・共有、創出、連携」は地域活動を活性化させるのに大事なことであったことが良くわかりました。

続いて、旭北地区より実践報告をしていただきました。

地区別計画の推進会議『まちぐるみ福祉推進会議』の中で災害時支援の取組の検討を重ねる中、日常の見守りの大切さに改めて気づき、地域全体に見守りを広げるための新たな取組を創意工夫しながら進めている報告をお話いただきました。



実践報告の様子

#### まちぐるみ福祉推進会議 第1部会 安心安全なまちづくりの取組について

平成19年度から「災害時あんしんカード」に取り組んできました。

##### 「災害時あんしんカード」について

災害時に自分の代わりに必要な情報を伝えてもらったり、緊急連絡先に連絡してもらったりすることを想定し、氏名、生年月日、住所、緊急連絡先等を記載した「災害時あんしんカード」を自治会・町内会長および民生委員に預けておくという取組。

なかなかこの取組が各自治会・町内会に浸透しませんでした。

- 旭北地区は21の自治会・町内会からなり、単位自治会町内会の世帯規模は30世帯～1000世帯と差がある。
- 自治会・町内会の役員任期が1年間ずつのところが半数以上。

実践報告の資料の一部

#### 参加者の声(アンケートより)

- ・「まちぐるみ福祉推進会議」の柔軟に参加できるところがとても良いと思いました。
- ・第2部の実践報告について、ご近所同士の普段からのコミュニケーションが大切。民生委員だけでは、見守りには限界があるので班長さんたちとの協力が必要だと思いました。